

NEWSLETTER

TOPICS

- ① ダイバーシティ推進シンポジウム「共に創る未来へ」
- ② ジェンダー・イノベーション ワークショップ
- ③ 公開講座「モノづくりチャレンジ～3Dプリンターでオリジナルグッズを作ろう！～」
- ④ オープンキャンパスにて女子学生向け座談会開催
- ⑤ 2025年度「女性研究者研究促進制度」採択者決定
- ⑥ 第11期女性技術者リーダー養成塾 開講
- ⑦ 名古屋工業大学 男女共同参画週間

COLUMN

電気・機械工学科 准教授 牛島達夫さんの読書案内
「他者を感じる『やさしいヒト』へ」第4回

CONTENTS

TOPIC

1

ダイバーシティ推進シンポジウム「共に創る未来へ」

2025年9月9日（火）、オンラインにて、名古屋工業大学ダイバーシティ推進シンポジウム「共に創る未来へ」を開催しました。

本シンポジウムは、工学分野におけるダイバーシティの重要性と、まだ十分に浸透していない視点を共有し、今後の課題について考えることを目的としており、ダイバーシティ推進委員会委員をはじめ、教職員や学生など、学内外から81名が参加しました。

開会にあたり、小畑誠学長が挨拶を行い、ダイバーシティ推進センター加野准教授が本学におけるダイバーシティ推進事業の取組内容について報告しました。

続いて行われた講演では、お茶の水女子大学理事・副学長、ジェンダー・イノベーション研究所長の石井クンツ昌子氏を講師に迎え、「ジェンダー・イノベーション～大学の取組や研究に注目して～」と題してお話いただきました。

講演は、幼少期の体験が現在の研究分野であるジェンダーや家族社会学に繋がったという話題から始まり、「ジェンダー・イノベーション」について幅広い視点から解説がありました。石井先生は、男性中心の研究により性差が見過されてきた弊害を、薬学・工学分野の事例を交えて示し、今後の技術革新にはジェンダー視点の導入が不可欠であると強調されました。後半では、国内外におけるジェンダー・イノベーションの動向や、お茶の水女子大学ジェンダー・イノベーション研究所の先進的な取組み、企業との連携事業についてもご紹介いただきました。

最後に、本学副学長・ダイバーシティ推進センター長 吉田江依子教授より、講演者、参加者への謝辞が述べられ、シンポジウムは閉会しました。

参加者からは、「様々な立場を考慮することで、一部の人に利益をもたらすのではなく、別の立場の人の困難に気づいたり、幅広い人にとってより良い研究や環境にできると感じました。」「性差を意識することで、これまで気づかなかった問題の解決策を見つけたり、イノベーションにつながることを再認識させていただきました」といった感想が寄せられました。

2025年度
名古屋工業大学ダイバーシティ推進シンポジウム
共に創る未来へ

2025年 9月9日(火)
13:30-15:00 [開場 13:20]

オンライン
開催

参加費
無料

プログラム

- 13:30 ▶ 開会・主催者挨拶
名古屋工業大学ダイバーシティ推進センター事業推進
- 13:40-14:45 ▶ 講演
「ジェンダー・イノベーション～大学の取組や研究に注目して～」
石井クンツ昌子氏
お茶の水女子大学
理事・副学長(国際交流・ダイバーシティ推進部)
ジェンダー・イノベーション研究部長
- 14:45-15:00 ▶ 総括
15:00 ▶ 閉会

参加申込方法

二重コードまたは下記URLよりお申し込みください
<https://diversity.nitech.ac.jp/diversity.php>

申込締切日 9/5(金) 正午まで
※二重コードまたはURLにアクセスできない場合は、
お名前、所属、連絡先を入力、下記までご連絡ください。
E-mail: diversity@diversity.nitech.ac.jp

主催・お問い合わせ先

名古屋工業大学
ダイバーシティ推進センター
〒466-8555 愛知県名古屋市中区千代田1-1

TEL/FAX 052-735-5121
E-mail: diversity@diversity.nitech.ac.jp
U. N. I. <http://diversity.nitech.ac.jp>



お茶の水女子大学
理事・副学長 石井クンツ昌子氏

TOPIC 2

ジェンダード・イノベーション ワークショップ

2025 年5月 27日（火）、工学部3年次前期の共通科目「ダイバーシティ概論」にて、河村電器産業株式会社の協力のもと、「ジェンダード・イノベーションワークショップ」を実施しました。同社が2024年4月に稼働を始めた郡山工場と中継をして、板金・塗装・組立などの現場をオンラインで見学しながら、性差や体格、働き方の多様性を踏まえた労働環境の改善策を考えました。

同社は、性別に関わらず誰もが作業しやすい職場づくりに取り組んでいます。受講生は、実際の作業の様子を見ながら気になる点を個々に抽出し、グループディスカッションで改善点を話し合いました。「大柄な男性でも作業しにくい工程がある」「小柄な方が有利な作業もある」という指摘もあり、作業台やコンベアの高さ調整、体力補助具の導入、トイレの配置改善など、具体的な提案がされました。

参加した学生からは、「現場を実際に見て考えることで、机上の議論では得られないリアルな課題に気づけた」、「女性が働きやすい環境を考えることは、結果的に全社員の負担軽減につながる」、「多様な視点が加わることで、新たな改善の可能性が広がる」との声が聞かれました。ジェンダード・イノベーションを糸口として、ものづくりの現場における多様性の価値を実感する貴重な学びの場となりました。



TOPIC 3

公開講座「モノづくりチャレンジ
～3Dプリンターでオリジナルグッズを作ろう!～」

2025年8月2日（土）、11号館2階CAD室にて、女子中高生を対象とした「モノづくりチャレンジ：3Dプリンターでオリジナルグッズを作ろう!」を開催しました。今回で7回目となる本講座では、講師にアンリツ株式会社 理事・CTO野田華子氏（本学OG）を迎え、本学の女子学生5名がサポートを務める中、中学1年生から高校1年生までの18名が、3Dプリンターを活用したものづくりを体験しました。



はじめに野田氏による講義でCPS（サイバーフィジカルシステム）や3Dプリンターの歴史・仕組みについて学び、続いて3D CADの基本操作を習得。最後は、事前に考えたデッサンをもとにオリジナルグッズの設計に取り組みました。立体的な画面表示やマウス操作に戸惑う場面もありましたが、講師や学生サポーターに質問しながら作業を進め、最終的には全員が思い描いた作品の設計を完了させることができました。

イベント終了後のアンケートでは、「このような企画は初めてで、使い方もよく知らなかったのですが、サポーターの皆さんの支援のおかげで、3Dプリンターで物を作る方法をよく学べ、工業にも興味が出てきました」といった工業分野への関心の高まりと満足感がうかがえる感想が寄せられました。



アンリツ株式会社
理事・CTO
野田華子氏



受講生作品



TOPIC 4

オープンキャンパスにて女子学生向け座談会開催

2025年6月7日（土）、8月1日（金）のオープンキャンパスにて、女子学生向け座談会を開催しました。

女子学生団体 彩綾～ SAYA ～のメンバーを中心とした名工大在学中の女子学生が学科ごと8つのグループに分かれ、来場した高校生からの質問に丁寧に答えました。

会場は終始和やかな雰囲気にもまれ、学科選びの理由や受験勉強のコツ、友人関係やサークル活動などさまざまな話題が飛び交いました。現役学生からのリアルな声を直接聞ける貴重な機会ということで、参加者たちは進路選択のヒントを得ようと、真剣な表情で話に聞き入っていました。

参加者からは「入学までに必要なことや、入ってからの話を具体的に教えてもらうことができたので、より、入学したい気持ちが強まりました」、「具体的なところまで丁寧に教えてくれて、調べてもわからないようなことを聞けて嬉しかったです」といった感想が寄せられました。



TOPIC 5

2025年度
「女性研究者研究促進制度」採択者決定

受託研究や民間企業との共同研究等につながる外部資金獲得に向けた支援として、2017年度に「女性研究者研究促進制度」を創設し、女性研究者を対象に研究費助成をしています。2025年度は5月に学内公募が行われ、選考委員会による審査を経て4名の女性研究者が採択されました。

氏 名	所 属	職 位	研究課題
笹井 遙	電気・機械工学	助教	固体材料の高速変形場における機械的特性の精密計測とモデル化
伊藤 愛	電気・機械工学	助教	組織培養系を用いた両生類心臓の再生能評価法の検討
LETTIERI Annarosa	社会工学	助教	Establishment of the Rational Seismic Design Procedure for the Lightweight Steel Structures with Strap-brace - Clarifying the structural behaviour of the key structure's components -
古川 萌	基礎類	准教授	初期トスカナ大公国における美術品の輸出管理体制と実態の解明

TOPIC 6

第11期女性技術者リーダー養成塾 開講

2025年9月5日（金）、製造業に勤めている女性技術者を対象に、技術者として長く活躍するために必要なスキルを学び、長期的視点でキャリアをデザインする機会を提供する「女性技術者リーダー養成塾」の入塾式・第1回講座が開催されました。第11期となる今年度は、20社から22名の女性技術者が参加しました。

午前に鬼木利瑛氏によるキャリアデザイン講座、午後に西岡慶子塾長による「VUCA（答えがない）時代」に関する講義が行われ、受講生は自己分析やグループディスカッションを通じて、自身の価値観やキャリアビジョンと真剣に向き合っていました。

講義後の質疑応答では、「情報を得るための選書のコツ」や「交渉の極意」といった実践的な質問が次々と寄せられ、受講生の意欲と関心の高さがうかがえる初回講座となりました。



TOPIC 7

名古屋工業大学 男女共同参画週間

毎年6月23日から6月29日は、内閣府が定める「男女共同参画週間」です。

これに合わせて、ダイバーシティ推進センターでは、本学における男女共同参画の理解促進を図るため、図書館にて「名古屋工業大学男女共同参画週間」の企画展示を開催しました。ポスター掲示のほか、ダイバーシティ関連図書、ロールモデル集、i-café（11号館3階）常設蔵書一覧などを設置し、図書館に立ち寄った学生や教職員が男女共同参画について気軽に学べる環境を整えました。

なお、i-caféにある蔵書は、センター事務室（11号館2階）に学生証または職員証をお持ちいただければいつでも貸出可能です。牛島先生の読書案内で紹介された本も揃えていますので、ぜひご利用ください。



電気・機械工学科 准教授
牛島達夫さんの

読書案内

他者を感じる「やさしいヒト」へ

第4回

今回紹介する本は、キム・ジヘ著『差別はたいてい悪意のない人がする』です。本書では日常の中で気づかぬうちに経験し、加担してしまう差別について省察されています。差別は、「差別は存在しない」という思い込み、あるいは「自分は差別をする人ではない」という願望から発生します。私たちは平凡な特権に気づきませんが、自動車の運転の不注意で女性の場合はその原因に性別を問題にされることがありますが、男性ではめったにそのようなことはありません。これが、男性が享受している平凡な特権の一例です。生まれた瞬間から性別役割を文化的固定観念として押し付けられて育つことで、女性は自身の能力を過少評価する傾向があるそうです。これが男女の賃金格差にも繋がっています。デメリットを被る人さえも、性別役割という秩序に従って行動することで、自ら不平等な構造の一部になっていき、差別が内面化され不可視化されていきます。

平等の物差しの例として、NASAマーキュリー計画（1958～63）に携わった黒人女性技術者のトイレの話が紹介されています。30年前、本学が女子推薦入試を全国に先駆けて導入したとき、工業系大学では女子学生は稀有な存在でした。それを当たり前前の存在にしようというのがこの制度の一つの役割です。導入以来、校舎を新築・

改築するたびに、各階に必ず女子トイレが設置され、工業系大学を含む教育機関でのトイレの設置基準に何等かの影響を与えたでしょう。昨年から女子推薦の対象学科が拡大され、多様な性自認を尊重する受け入れ方針を表明しています。今後の校舎改築の際には、関西万博でも話題となったオールジェンダートイレの導入を検討してはどうでしょうか。デンマークでは大学および公共施設で導入が当たり前となっています。鶴舞公園の周りには本学を含め、公会堂、鶴舞図書館、大学病院などの公共施設があります。共創空間としてオールジェンダートイレをこの地区で先んじて導入することは、ジェンダー平等社会実現に向けた本学のコミットメントと教育理念「未来づくり」「ひとづくり」をアピールすることになるのではないのでしょうか。



大月書店
2021/8/26 初版刊行
256 ページ

